

## 健康教育実践記録

第 2 学年	指導者	武藤 ・ 内田
題 材	「おへその ひみつ」	
ねらい	母親のおなかの中で育ち、生まれてきたかけがえのない自分の命に気づかせる。	
本時の活動 (実践日 平成27年 9月10日 木曜日 第5校時)		
児 童 の 活 動		児童の主な反応・様子
1. おへそクイズをして、おへそのある動物とおへそのない動物があることを知り、違いを考える。		○ クイズは子ども達の興味を引き付け、たいへん盛り上がり「おへそ」についての学習をすることを意識づけすることができた。 「へそありは、お母さんから生まれる。」
2. おへそとは何かを考え、「おへそ」のひみつについて知る。 ・おへそって、何だろう。		○ 「おへそは、へそのおがとれたところ」 「お母さんとつながっていたところ」
3. 赤ちゃんがお母さんのおなかの中で育っていく様子を聞き、おへその役割を知る。 ・「たいばん」からのくだ ・おいしい空気・栄養を赤ちゃんへ ・いらなくなった空気といらなくなったものをお母さんへ		○ おなかに赤ちゃんがいるおかあさんの絵を見る。 →「やっぱり、つながっている。」 →「さかさま。」 →「へそのおで、まもられていたんだ。」
4. おなかの赤ちゃんに対するお母さんや家族の気持ちを考える。 ・お家の人から自分がおなかにいたところのことを聞き、お家の人のお気持ちを考える。		○ お家の人からおなかにいた時の話を聞いたり、知っていることを発表したりして、自分は家族の深い愛情に包まれて誕生してきたことを知ることができた。 「赤ちゃんのことを考えて、栄養あるご飯を食べたよ。」 「激しく運動しないように気をつけたよ。」 「心をこめて名前をつけたよ。」 → へその緒だけでまもってくれたのだろうか?の問いに、口々に「愛情」と言う。
5. 赤ちゃん人形を抱っこする。 ・出生時と同じ大きさの人形を抱っこし、命の重みを体感する。		
6. 学習のまとめをする。		○ おへそは、お母さんとつながっていた証拠。
指導を終えての考察		
<p>・おへそのあるなし動物は、犬・ネコ・馬・こども・ニワトリ・金魚・ウサギ・カブトムシ・チョウ・カエル…低学年の子どもが少し考える程度の問題で導入にふさわしいと感じた。</p> <p>・「たいばん」などの難しい言葉や新しい言葉も出て来たが、愛情で結びついたかけがえのない命であることが分かる学習で、終始子ども達が温かい雰囲気の中で学習することができた。終末では、赤ちゃん人形を抱っこして、命の重みを体感し、命の大切さを実感する時間となった。</p> <p>・学習後、家庭で子供がおなかにいた頃の話をしたり、へその緒を一緒に見たりして、家庭へと学習をつなげることができた。</p> <p>学習内容が学年ごとに系統立てているので分かり易く、学習の準備をし易くて良かった。</p>		